

C-59 女子大学生の着衣状態について (第2報)

神戸大教育

稲垣和子

目的 前報において女子大学生の年間を通じて衣服調査を行なった結果、衣服全重量と月別との関係、及び寒暑感覚について報告したが、本報では被服材料の種類と被服の種類との月別の関係、及び衣服重量について肩、及び腰にかゝる分布がどのようになっているかなど、更に検討を加え若干の成績を得たので報告する。

方法 調査は京阪神に居住する女子大学生146名について行なった。調査方法については、第1報に報告した通りであり、今回もタナックカードを利用して結果を整理した。

結果 平常着については年間にわたり木綿、合繊が多いが、夏季特に木綿が多いに及し、合繊は激減し、羊毛は9月より増えはじめ冬季は木綿、合繊に次いで多い結果が出た。作業着も平常着とほぼ似た傾向を示すが、夏季における木綿と合繊との関係は、平常着より更に顕著である。外出着においては8月をのぞき何れの月も合繊が最も多い。衣服の肩重量は、平常着や作業着においては冬季は夏季の約3倍で、外出着においては約5倍である。又変動の幅は、外出着が最も大であるに対し、作業着は小である。腰重量は、平常着、作業着、外出着共夏季において特に8月に減少する他はほぼ年間にわたり大差がみとめられなかつた。尚、衣服全重量に対しての検討や単位体重あたりの考察などについても報告する。